

総合評価

受診施設名	京都市山ノ内児童館	施設種別	児童館
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

平成26年4月12日

総 評	<p>京都市山ノ内児童館は、社会福祉法人宏量福祉会を設置主体として、昭和59年に開設されました。当該児童館が位置する京都市右京区の山ノ内学区は、保育園、幼稚園、小・中・高・大学までが学区内に存在する文教地区でもあります。周辺には3学区が混在し、住宅や工場などが密集している地域に、同法人が運営する母子生活支援施設「野菊荘」と「社会福祉法人京都市民生会 山ノ内保育園」が隣接して福祉エリアを形づくり、児童館事業や学童クラブ事業等を運営されています。</p> <p>「子どもや地域住民の皆様が様々な活動を通して交流を深め、地域の『子育て交流の場』という位置づけとなるように活動する。」という理念を掲げ、学区の社会福祉協議会、保育園、小学校をはじめ関係機関と連携して「地域で支え合う子育ての環境づくり」を推進されています。また、地域福祉に関して、「地域サークルの活動支援」や「エコ活動の推進」を年間目標に、卓球サークルや手話サークル等をはじめ、介助者懇談会等も実施しています。</p> <p>児童館活動においては、「妊婦期からの関わりをもてる取り組みを行い、乳幼児家庭対象の取り組みを充実させる。」という年間活動方針を掲げ、[マタニティータイム]、[赤ちゃんタイム]、[ファミリータイム]等、妊婦さんや乳幼児家庭を対象としたプログラムが毎日実施されていました。また、子育ての不安や孤立感を緩和するための相談機能の充実にも力を入れ、保健師による相談会・交流会を毎月開催するなど、利用者の安心に繋がる取り組みが行われていました。小学生対象には、手話、空手、バスケットボール、将棋、卓球等の教室やクラブが実施されていました。</p> <p>これらの乳幼児クラブや児童館クラブ事業の指導や保育補助に、地域住民や学生がボランティアとして多数関わっていることは特徴的であり、地域との連携、ボランティア育成という視点からも高く評価できます。指導にあたる児童厚生員は、職員会議等において全職員で活動内容や課題についての情報共有を徹底させて業務にあたられています。また、児童館運営に必要な専門性を養う研修計画が策定されており、公益財団法人京都市児童館学童連盟が提供する研修にも積極的に参加していました。</p> <p>今後は、理念を具現化するために職員全員で策定した年間活動方針をパンフレットや広報誌等に記載し、地域自治会等に周知して協力を得る取り組みが必要です。「子ども育成」「子育て家庭支援」「地域福祉促進」等の機能を果たすための様々な活動内容を地域に向けて周知していくことが、さらなる利用の拡大に繋がると考えます。</p> <p>また、中高生の利用について、現行の「中高生と赤ちゃんの交流事業」をはじめ、「デイキャンプ」や「山ノ内児童館まつり」等の行事を通して、児童館を巣立った利用者や保護者の協力を得ることにより、新たな活動の企画も期待できます。</p>
-----	---

	<p>長年に渡り母子支援に携わって来られた法人の実践を集積しながら児童館としての目標を達成する計画を明確に定め、理念である『地域の子育て交流の場』として信頼を高め、地域における機能をさらに拡大されることを期待しています。</p>
特に良かった点(※)	<p>I-2-(2)① 計画の策定が組織的に行われている。 中・長期計画や事業計画は、職員全員で検討、策定されていました。また、事業計画の実施状況の把握、評価については、週1回の職員会議において協議され、法人にも報告される仕組みがありました</p> <p>II-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。 保健師・民生児童委員・関係団体等と連携して利用者ニーズの聞き取りを行い、児童健全育成に関する幅広い活動を実施しています。特に、マタニティーや乳幼児の親子活動には力を入れ、ピアノコンサート、カフェタイム、ハンドマッサージ等の取り組みを行うなど、地域のニーズに基づく事業や活動が行われていました。</p> <p>III-4-(1) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。 活動毎に担当者を設定し、事業実施計画書・報告書が作成されました。職員全員で活動内容について振り返り、PDCAサイクルを活用して次の活動に繋げていました。</p>
特に改善が望まれる点(※)	<p>I-1-(2)② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。 理念・基本方針は、職員全員の参画により策定され職員会議において確認されていましたが、年間活動方針はパンフレット等には記載されておらず、地域自治会等に対して周知する機会も設定されていませんでした。</p> <p>II-1-(1)③ 外部監査が実施されている。 外部監査は来年度より導入が予定されていますが、現在までのところは実施されていませんでした。</p> <p>III-1-(2)①利用者満足の上昇に意図した仕組みを整備している。 おたより等で利用者の意向に配慮する姿勢を明示し、定期的に意向を聞くようにされていましたが、利用者アンケート等の書面による定期的な調査は実施できていませんでした。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【共通評価基準】 児童館版

評価結果対比シート

受診施設名	京都市山ノ内児童館
施設種別	児童館
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2014年1月28日

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立されている。	① 理念が明文化されている。	b	a
		② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	b	b
	I-1-(2) 理念、基本方針が周知されている。	① 理念や基本方針が職員に周知されている。	b	a
		② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	c	b
I-2 計画の策定	I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。	c	a
		② 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	c	a
	I-2-(2) 計画が適切に策定されている。	① 計画の策定が組織的に行われている。	a	a
		② 計画が職員や利用者等に周知されている。	b	b
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	b	b
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	b	b
	I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	b	a
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	b	b

【自由記述欄】

I-1-(1)	①今年度、「地域の『子育て交流の場』という位置付けとなるように活動する」という理念について職員全員で見直しを行い、パンフレット等に明文化されている。 ②基本方針は、年間活動方針として作成されているが、パンフレット等には記載されていない。
I-1-(2)	①理念・基本方針は、全職員参画のもとで策定され、職員会議において確認されている。 ②理念はパンフレット等に記載されており、利用者に対しては周知している。地域自治会等に対しては、資料をもとに周知する機会がない。
I-2-(1)	①②5年毎に中・長期計画を見直し策定している。また、中・長期計画を踏まえ、利用者のニーズを考慮した事業計画が策定されている。
I-2-(2)	①中・長期計画、事業計画は、職員会議において職員全員で協議して策定されている。 ②事業計画は、おたよりやポスターを作成して利用者等に周知しているが、地域自治会等には周知できていない。
I-3-(1)	①管理者の果たすべき役割と責任について、職員間で共通理解しているが、文書化や広報誌等への掲載はされていない。 ②管理者は遵守すべき法令に関する研修等に参加し、職員への周知を図っているが、リスト化はしていない。
I-3-(2)	①管理者は、児童館活動において職員との共通理解のうえ適切な助言を行い、自らも積極的に活動に参加している。 ②管理者は適切な人員配置等に取り組んでいるが、経営や業務の効率化についての分析ができていない。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	b	a
		② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	a	a
		③ 外部監査が実施されている。	c	c
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	b	b
		② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	c	b
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	b	a
		② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	a	a
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a	a
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	a	a
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	a	a
	II-2-(4) 実習生の受入れが適切に行われている。	① 実習生の受入れに対する基本的な姿勢を明確にし、体制を整備している。	b	a
② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。		b	a	
II-3 安全管理	II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。	① 緊急時(事故、感染症の発生時など)の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	b	a
		② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	b	b
II-4 地域との交流と連携	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者地域とのかかわりを大切にしている。	a	a
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	b	a
		③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。	b	b
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	a	a
		② 関係機関等との連携が適切に行われている。	a	a
	II-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。	① 地域の福祉ニーズを把握している。	a	a
② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。		a	a	

【自由記述欄】

II-1-(1)	①関係団体の研修等に参加し、児童館の動向を把握するとともに、地域の関連機関との情報共有に努めている。 ②施設規模・職員数と利用者との関係についての分析を行い、改善に向けた取り組みが職員全員で行われている。 ③外部監査は来年度より導入の予定であるが、現在は実施されていない。
II-2-(1)	①職員ヒアリングを行い今後の人員体制を検討しているが、有資格者の配置を含めた人員計画が策定できていない。 ②人事考課の目的や効果について理解しており、来年度導入に向けて準備を進めている。
II-2-(2)	①個別面談の機会を設け相談しやすい環境整備をしており、法人の心理療法士に相談できる体制がある。夏季リフレッシュ休暇が取れるように配慮している。 ②共済会に加入し、福利厚生事業が適切に行われている。
II-2-(3)	①職員の教育・研修に関する基本姿勢が明文化されている。 ②③職員一人ひとりの職員研修・科目履修計画に基づいた研修が行われている。
II-2-(4)	①実習生を受け入れるにあたり担当者を決め、職員間で実習の意義、方針を確認している。 ②実習プログラムを整備し、実習生の意見を反映させてプログラム改善を行っている。
II-3-(1)	①安全管理については各部屋の管理担当を決め、事故防止に関する検討会を実施している。 ②災害対策を含めたマニュアルは随時見直しされている。事故防止のチェックリストは現在作成中であった。

II-4-(1)	<p>①民生サロンや母親サークルに会場を提供したり、卓球・将棋・リトミック・バスケット等、地域住民による子育て支援の活動を促進している。</p> <p>②保健師や小児科医による講演会を開催したり、年に3～4回サイクル活動や餅パーティーの企画を行うなど、多様な支援活動を行っている。</p> <p>③介助ボランティアに障害のある児童の送迎や活動援助の担当を依頼するなど、幅広いボランティアの受け入れを行っているが、マニュアルの整備ができていなかった。</p>
II-4-(2)	<p>①関係機関・団体のリストは、関連ファイルとして保管し職員間で共有して活用している。</p> <p>②児童相談所・保健センター・小学校等と、定期的な会議や懇談会を実施して連携を図っている。</p>
II-4-(3)	<p>①保健師・民生児童委員・関係団体と連携して、利用者ニーズの聞き取りを行い、児童健全育成に関する地域ニーズの把握に努めている。</p> <p>②子育て家庭の孤立を防ぐ目的で、民生児童委員の協力を得て、「子育てマップ」を配布している。マタニティー、乳幼児のお母さんからリフレッシュしたいという声を聞き、ピアノコンサート、カフェタイム、ハンドマッサージ等の取り組みを行うなど、地域のニーズに基づく事業・活動が行われている。</p>

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	a	a	
		② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	b	a	
	Ⅲ-1-(2) 利用者満足の向上に努めている。	① 利用者満足の向上に意図した仕組みを整備している。	b	b	
		② 利用者満足の向上に向けた取り組みを行っている。	b	a	
	Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	b	a	
		② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	b	a	
		③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	b	a	
	Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	b	b
			② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	b	a
③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。			b	a	
Ⅲ-2-(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。		① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	b	a	
		② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	a	
Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。		① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	a	a	
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	b	a	
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	a	a	
Ⅲ-3 サービスの開始・継続		Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対して活動選択に必要な情報を提供している。	b	a
	② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。		a	a	
Ⅲ-4 サービス実施計画の策定	Ⅲ-4-(1) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。	① サービス実施計画を適切に策定している。	a	a	
		② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a	a	

【自由記述欄】

Ⅲ-1-(1)	①事業計画実施にあたり、職員会議において利用者を尊重した活動内容であるかを職員全員で検討している。 ②プライバシー保護に関するマニュアルがあり、写真の取り扱い等に関しては個別に了承を得ている。
Ⅲ-1-(2)	①おたより等で利用者の意向に配慮する姿勢を明示し、定期的に意向を聞くようにしているが、書面による定期的な調査は実施できていない。 ②保護者懇談会、介助者懇談会を開催して利用者の意見を汲み取り、職員の対応について改善を図っている。
Ⅲ-1-(3)	①通信等を通じて、職員や保健師を含めた複数の相談方法を紹介し、子育て相談を随時受け付けている。 ②苦情解決の仕組みを説明した資料を利用者に配布して、その内容と解決策を適切に公表している。 ③利用者からの意見に対しては、マニュアルに則り迅速に対応している。
Ⅲ-2-(1)	①職員会議において、サービス内容の見直しについて検討しているが、定期的な自己評価は実施されていない。今回が初めての第三者評価受診である。 ②サービス内容の課題について、職員会議において共有し課題を明確にしている。 ③課題に対する改善策は、職員会議において職員全員で検討し、計画を策定する仕組みがある。
Ⅲ-2-(2)	①サービス実施計画書に標準的な実施方法が記載され、利用者のプライバシー保護の姿勢も明示されている。 ②サービスの標準的な実施方法については、職員会議において定期的に見直しをする仕組みがある。
Ⅲ-2-(3)	①サービス実施状況は活動日誌に記録され、配慮が必要な児童に関しては相談表に相談内容等を記載し、連絡機関との連携に活用されている。 ②記録に関する規程が適切に定められている。 ③利用者の状況等に関する情報は、日誌の回覧により共有されている。
Ⅲ-3-(1)	①ホームページ、おたより、ポスター等で、活動に関する情報を幅広く提供している。 ②利用開始にあたり、活動内容や利用方法について、書面で説明している。
Ⅲ-4-(1)	①活動毎に担当者を設定し、担当者が作成した計画に基づいて職員会議で協議している。 ②事業実施計画書、報告書を作成し、職員全員で活動内容について振り返り、次の活動に繋げている。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【付加基準】 評価結果対比シート 児童館

受診施設名	京都市山ノ内児童館
施設種別	児童館
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2014年1月28日

【付加基準】児童館版 評価結果対比シート

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-1 遊びの環境整備	① 遊ぶ際に守るべき事項(きまり)が、利用者に理解できるように決められている	b	a
		② 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある	b	b
		③ 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している	b	b
		④ くつろいだり、休憩したりするふれあいスペースを作っている	a	a
		⑤ 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている	a	a

【自由記述欄】

A-1	<p>①遊ぶ際の約束等については、児童をはじめ利用者に理解しやすいように表示されている。</p> <p>②乳幼児から中高生までが利用できる環境整備をしているが、日常的には中高生の利用が少ない。</p> <p>③自発的かつ創造的な活動に向けて環境整備に努めているが、遊具の収納スペースなどハード面に制限がある。</p> <p>④利用者同士の交流が図れるように、活動後に自由に使えるスペースを開放している。</p> <p>⑤地域の幅広い年齢層が参加できる「山ノ内児童館まつり」、「デイキャンプ」等、様々な活動を定期的に企画している。</p>
-----	--

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-2 乳幼児と保護者への対応	① 乳幼児と保護者が日常的に利用している	a	a
		② 乳幼児活動が年間を通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている	a	a
		③ 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している	b	b

【自由記述欄】

A-2	<p>①乳幼児親子の利用が日常的になるように、活動を計画して実施している。</p> <p>②地域の子育て支援ネットワークと連携を図り、乳幼児活動を進め、相談を受け付けている。</p> <p>③保護者同士の交流を図る活動は計画しているが、企画や運営から保護者が参加する取り組みはできていない。</p>
-----	---

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-3 小学生への対応(核となる児童館活動)	① 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	a	a
		② 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	a	a
		③ 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深める取り組みが行われている	b	a
		④ 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・主体性を育てることを意識して企画されている	a	a

【自由記述欄】

A-3	<p>①遊びの場面で個々の児童の心理を把握するために、職員間で児童に関する情報共有を徹底して行っている。</p> <p>②個別・集団援助技術を学習するとともに、事例検討をしている。</p> <p>③障害の有無や国籍の違いを利用者が理解できるように、児童や保護者に説明している。</p> <p>④行事やクラブ活動の企画では、児童が興味を持って自主性が育つような場面を設定するように工夫している。</p>
-----	--

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-4 中高生への対応	① 日常的に中高生の利用がある	b	b
		② 中高生が主体性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	b	b
	A-5 利用者からの相談への対応	① 利用者からの相談への対応が自然な形で行われている	a	a
		② 虐待を受けた児童や不登校児への支援体制が整っている	b	a
	A-6 障害児への対応	① 障害のある児童の利用に対する支援策が整っている	a	a
[自由記述欄]				
A-4	①利用した中高生への対応や声かけに配慮して、適切な役割を持てるようにしている。利用時間の関係から中高生が利用しにくい現状である。 ②「中高生と0歳児親子の交流事業」等、縦割りの行事を実施しているが、中高生が企画から参加できるような活動が実施できていない。			
A-5	①保健師による相談日を設け、必要に応じて保健センター、児童相談所等の関係機関を紹介している。 ②虐待については、法人の母子生活支援施設野菊荘、児童相談所、小学校と連携して支援体制を整備している。			
A-6	①障害のある児童については、保護者や関係機関と連携して情報共有を図り、介助ボランティアを募る仕組みがある。			
評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-7 地域の子育て環境づくり	① 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	b	b
		② 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	b	a
	A-8 広報活動	① 広報活動が適切に行われている	a	a
		② 児童館の活動内容をわかりやすく知らせ、利用促進につながるように創意ある広報活動が行われている	a	a
[自由記述欄]				
A-7	①地域の関係団体と連携して子育て支援活動の促進を図っている。地域が児童館運営を支える仕組みとしての運営協力会等が組織できていない。 ②送迎時の介助ボランティアや自治会等の協力を得て、地域の見守りや犯罪防止活動を実施している。			
A-8	①自治会や健全育成団体と連携して広報活動を行い、児童館の利用促進を図っている。 ②利用対象者別の広報誌や行事のチラシを作成し、地域の掲示板や小児科をはじめ関係機関に配置している。			